



教育は人なり

妙高市内の全小学6年生が1週間寝食を共にする「妙高フレンドスクール」のサポートで、3週間妙高自然の家で過ごしました。近くに住んでいるものの、これほどまでに長い期間お世話になることは初めてでした。

自然の家の魅力は様々ありますが、最も感じたものは「人」です。直接ご指導いただいた職員の方は勿論のこと、陰で支えてくださった方々が温かく、まさしく教育のプロ集団でありました。自然の中で学ぶ子どもたちと、それに関わる大人たちが少しでも成長するようとの思いの上に立っておられます。立ちほかかる壁を前にした時、「じゃあどうしようか」と背中を押し助まさせていただきました。どんなに環境がよくとも人がお粗末では「教育」にはなりません。自然の家は人も環境も抜群の施設だとつくづく感じた3週間でした。

自然学校ねぎぼうず 代表
フレンドスクール全体指導者
大矢かおる



妙高の光と風の中で

今、学校の玄関では、子どもたちが撮ってきた“5年生がみた妙高写真展”がおこなわれています。見事な妙高の秋を感じる写真ばかりです。一枚一枚の写真から自然体験の素晴らしさが伝わってきます。

妙高アドベンチャープログラムから始まった三泊四日の長期宿泊体験。森の中で一日かけて造りあげた隠れ家、妙高の自然を満喫した笹ヶ峰トレッキング、トマトときのご収穫体験等盛りだくさんだった体験活動これら全て妙高の自然の中でおこなわれました。助け合い協力することの大切さ、自然の家の職員の方をはじめ民宿での温かい人との関わり等々、子どもたちにとって妙高は第二の故郷です。妙高での学びは、これからの生活に生きて働く力となることと思います。



足立区立東綾瀬小学校長
前全国特別活動研究会 会長
小野寺輝子

自らの判断で 行動できる選手に

—指示待ちからの脱却—

サッカーは、目まぐるしく戦況が変化する代表的なスポーツです。1本のロングキックでビッグチャンスがピンチに、逆もまた然りです。

そんなとき、監督がベンチから11人全員に指示を出すことは不可能です。状況の変化に対応し、自らの判断で行動し、プレーを決定しなければなりません。勝つために、いま自分は何をすべきか、それはある種の課題解決活動とも言えます。日常生活においても課題意識を持ち常に自分で考え、工夫し、行動するメンタリティが求められます。

自然体験活動はサッカー選手に必要なメンタリティを育むうえで有効な手段だと思います。特に妙高の雪は、選手たちのアイデアを引き出す最高の教材です。サッカーは「指示待ち」が通用しない世界、妙高での活動を通して、自らの判断で行動できる選手が育つことを期待しています。

横浜F・マリノス
ジュニアユースコーチ
福富 信也



平成21年度事業・研修カレンダー

- 5月16日(土)～17日(日) MYOKOボランティア養成所
- 6月12日(金)～14日(日) 心の冒険教育指導者養成研修
- 6月21日(日)～26日(金) 妙高フレンドスクール(1)、(2)
- 7月3日(金)～5日(日) 妙高ネイチャープログラム指導者養成研修

国立妙高青少年自然の家は利用者の方々の様々な思いで利用されています。また、自然の家が行う事業には外部の多くの方々からの協力を得ています。そんな皆様から自然の家へのメッセージをいただきました。いただいた声を糧に、自然の家は今後も自然体験活動をおして一人ひとりに感動を与える施設づくりを目指します。

キャリア教育の視点にたった 野外活動プログラムのさらなる開発を

上越教育大学在職中、学生引率でお世話になった国立妙高青少年自然の家と、企画事業「キャンプとお手伝いの旅」で一緒にさせていただき大変光栄でした。

同事業では、キャリア教育の視点で野外活動を企画実施することで小学生の勤労観、職業観の育成されることを実証していただきました。キャリア教育は、学校教育にとどまらず幅広い活動で社会人、職業人となる基礎を培うもので、体験活動による「やってわかる」、コミュニケーション活動による「話して気づく」(体験活動)が中心となります。

野外活動はキャリア教育にとって重要な場です。今後ともキャリア教育の視点にたった野外活動プログラムの開発に尽力いただけることを期待しております。



早稲田大学大学院教職研究科教授
三村隆男
主な著書「新訂キャリア教育入門その理論と実践のために」

心地よさから 生まれる笑顔

障害児・者の余暇支援として妙高での一泊キャンプをし始めて、早4年。毎回多くの参加者が集まりますが、その度に感じることは、やはり自然の素晴らしさです。障害を持った方のキャンプをやらとって、特別なものなどありません。そこに自然があれば、何もいらぬのです。冬には一面に広がった雪に埋もれて笑い、夏には森の中で汗を掻き川の中で思い切り遊びます。そんな日常では感じる事のできない大自然の中で過ごす時、みな心がのびのびできるのか、参加者には今まで見たことのないような笑顔が生まれます。そしてリフレッシュ、結果小さな成長が見られたりもするのです。こんなにも遊び過ごすことができ、さらに人を心地よくさせる自然の力って、やっぱりすごい。これからも、自然の力を借りて、障害をもった方の生き生きとした笑顔をたくさん見ることができたいいなあと思います。



NPO法人りとらふ理事長
片桐 公彦

MYOKOに 寄せられた声

オンリー・ワンのあなたに ナンバー・ワンの 感動体験を!



Information 秋の受入強化月間

- 屋外 源流探検/森の手入れ活動/炭焼き体験/秘密基地づくり/森小屋づくり/早朝野鳥観察/森のレストラン/星座観察/草花遊び/オリエンテーリング/野外炊飯/妙高アドベンチャーなど
- 屋内 館内オリエンテーリング/陶芸/草木染め/木の葉のTシャツ/マイフォーク・マイスプーン作り/ペーパークラフト/ドンクリクラフト/ネイチャーリースづくり/そば・うどん打ち/ニュースポーツなど

9月から12月は、秋の受入強化月間です。この時期は、気候もよく、ゆったりとした雰囲気の中でご利用が可能です。おすすめのプログラムは次のとおりです。

まずは
お電話
ください。